

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	都市建設部		
	課名	土木課		
	係名	維持係		
	記入者		電話(内線)	239

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	交通安全施設整備事業				(3) 事業の 優先度	A		
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)			
② 施策コード	24301		(総合計画掲載ページ 74～78 ページ)				会計区分	一般会計			
基本目標(政策)	2		安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)				財源区分	国庫補助			
基本施策	4		安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)				予算科目	款 8		項 2	目 2
施策			交通安全対策の推進				予算書上の	交通安全施設整備事業費			
施策内容			安全に利用できる道路管理				事業名称	(予算書 137 ページに掲載)			
(5) 事業期間	開始	昭和	61	年	4	月から	(8) 事務分類		自治事務		
	終了			年		月まで (	根拠法令				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
道路の利用者	交通安全施設(道路反射鏡・区画線)を設置することにより、人や車両が安全に通行できる。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
道路反射鏡や区画線の設置など、道路交通の円滑化を目的とした施設及び構造物を設置する。	市内に危険箇所が点在するため設置するようになった。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
住民からの要望が多く、道路の安全性はますます緊急的な対応が求められている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費	交通安全道路施設整備工事		6,944		7,000						
		交通安全道路施設補修工事		2,685		2,500						
	合計		9,629		9,500							
	財源	国庫支出金（千円）										
県支出金（千円）												
地方債（千円）												
その他特定財源（千円）		6,151		7,200								
一般財源（千円）		3,478		2,300								
合計（千円）		9,629		9,500								
補助・起債制度名		交通安全対策特別 交付金		交通安全対策特別 交付金								

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	道路反射鏡の設置	目標値	基		40	40	40	40
		実績(見込)値		23	40			
	区画線の設置	目標値	m		3,500	4,000	4,000	4,000
		実績(見込)値		10,109	3,500			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	交通事故の件数	目標値	件		205	200	195	190
		実績(見込)値		212	205			
		達成率		111.6 %	107.9 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
破損した箇所について、即時に対応策を係内で検討し、適時、随意契約発注にて対応し、危険箇所の早急な対応ができるよう努めた。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	要望の件数が多いため、必要性は高い。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である。				
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	要望が多様化しているため、高い効率性は望めない。				
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	危険箇所が常に変化しているため、交通安全施設を設置するための明確な基準を設けることができない。				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	目標の水準を下回っている。				
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	整備は順調に進んでいる。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
交通安全上の危険箇所が常に変化していること及び交通安全施設の老朽化が進んでいることによる事業の必要性、緊急性が高まっているが、交付金が削減されてきており、事業のコスト削減には限界があり、これ以上の削減は、市民生活の安全に支障を与える恐れがある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
整備箇所の緊急性・必要性を考慮しながら、優先順位をつけ計画を立て対応する。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		27年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		整備箇所の把握に努めその箇所に応じた費用対効果を考慮し、最適な施工方法を選定してコスト削減、成果向上を図る。なお、人と金の拡充については、財政状況と出来る限り調和を図りながら進める。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				